

# 柴山潟活用特別委員会 行政視察報告

2月1日から2日にかけて、委員4名、議長、市当局2名、事務局随員1名で、山口県宇部市・下関市へ視察してまいりました。

## ■山口県宇部市

### ときわ湖周遊園路について

ときわ湖は、元禄11年に灌漑用として常盤池が築堤された人工湖で、昭和33年に常盤遊園地が開園して以来、憩いの場として、また貴重な観光施設として多くの市民や観光客に利用される総合公園です。

年間入園者数は、昭和44年の77万人をピークに減少し、平成20年には37万人台まで落ち込み、施設の維持管理経費が増加する状況でした。



宇部市

宇部市では、入園者の増加に向けた施策を展開し魅力向上のため「ときわ公園を



ときわ公園 ときわ湖

核とした観光戦略に基づき新しい人の流れをつくり、地域経済の活性化につなげるため計画を策定しました。

中でも、魅力づくりの要素を高め、収入増と支出減に向けた効率的な公園運営をすることで、年間入園者数が増加し、収支のバランスが改善されているとのことでした。

今後、貴重な資源を活用し、さらに進化をさせ、自然を通して、体験することで生命や自然環境、歴史、文化芸術を誰もが、楽しみながら学べる

日本一の「自然体感型テーマパーク」を目指すとのことでした。

## ■山口県下関市

### 唐戸市場周辺施設整備等について

下関市は、山口県内の観光客数の約2割が訪れ、市内への観光客数では約3割が唐戸地区を訪れる市内でも有数の観光スポットの集約地です。

唐戸地区は下関港ウォーターフロントエリアの中でも賑わい創出の核として大きな役割を担う地区です。エリアは、関門海峡に掛かる関門橋、対岸の北九州市の門司港を結ぶ船が就航する浮桟橋、市立水族館の海響館そして、唐戸地区、東港地区及び岬之町地区一体をウォーターフロントとし、多くの人が賑わう海辺空間づくりの事業を進めているとのことでした。

下関市のウォーターフロント整備の中で、当委員会が着目し、視察目的としたボードウォークについては、関門海峡に広がる絶好のロケーションを醸しだしているが、毎年多額の維持管理費として補修費

及び点検業務委託が必要であり、週3回の点検を行っているとのことでした。

このボードウォークは、表面の板を留めるビスを見えるようにすることで、ちょっとした補修も短時間でできるようにしており、軽微な損傷ならば通行止めとせず直すことができ、海辺空間をいつでも楽しめるようにしているとのことでした。



下関市唐戸周辺

## ■視察を終えて

今回の視察は加賀市としてこれからはすべき取り組みの参考となるものが多数ありました。

今後、視察した事例は、委員会の調査のヒントとし、加賀市が抱える課題の解決に向け、進めていきたいと思えます。